

年頭寄稿 「細心かつ大胆」

日本銀行前橋支店長
竹澤 秀樹

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、日本銀行に対し格別なるご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。本年も宜しく願いいたします。

昨年群馬県経済は、東日本大震災の後、一旦は落ち込みましたが、各般における懸命のご努力が功を奏し、急速な回復を果たしました。もっとも夏場以降は、欧州の政府債務問題を背景とした海外経済の減速や急速な円高の進行、さらにはタイの洪水もあって、景気持ち直しのテンポは緩やかなものとなりました。この点は、昨年12月に実施した日銀短観においても見てとれるところです。

今後の景気動向を展望すると、新興国の成長や震災復興関係の需要の顕現化から、やがて緩やかな成長経路に戻ると見通されるところです。

もっとも、その実現を危うくするいくつかのリスクがあることは否めません。その最大のものは欧州の政府債務問題です。問題が悪化した場合には、輸出依存度の高い県内経済に下押しの圧力が強まる可能性があります。欧州では、政府財政への信認低下による金利上昇や、ユーロ諸国の国債を多く保有する金融機関の信用低下は続いており、金融機関の貸出姿勢の慎重化は景気を冷やす要因となっています。事態の改善が期待されるところです。

海外経済の減速や円高に対応して日本銀行では、昨年8月以降2度に渡り国債等の買入れを増やす形で金融緩和を強化しました。また11月には、国際的な金融市場の緊張の高まりに対応すべく、米欧の中央銀行と協力して金融機関に対して円だけではなくドル資金も供給する体制を整えました。さらに、経済の成長力強化に向けた取り組みを支援するために、金融機関への長期・低利の資金供給を続けています。今後とも、日本経済がデフレを脱却し、成長経路に戻るための貢献を粘り強く続けていく方針です。

先行きへの不透明感が拭えない中、企業経営にあたっては、情勢を良く把握して先行きに複数のシナリオを準備し、必要があれば果敢に舵を切ることを念頭に置いておられると思います。細心かつ大胆な対応により、この一年、群馬県経済が竜の如く雄々しい飛翔をとげられますこと、あわせて群馬県経営者協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。